おおたま学園コミュニティ・スクールだより

令和８年１０月１３日発行　No.４５　おおたま学園コミュニティ・スクール委員会
（事務局：大玉村教育委員会内　連絡先：４８－３１３８）

玉井小学校・玉井幼稚園学校運営協議会（7/15)より

□　７月１５日（金)、玉井小学校において学校運営協議会が開催されました。
　まず最初に、全クラスの５校時の授業が公開されました。１学期末ということで、まとめの学習や夏休みに関すること、季節にちなんだ授業内容等が取り上げられていました。
　子どもたちが生き生きと活動する授業を参観させていただきました。




集中して学ぶ子どもたちの様子・・・（授業参観＜５校時目＞）

□　学校運営協議会では、玉井幼稚園・玉井小学校が設定したテーマについて協議が行われ、活発な意見交換がなされました。以下全体共有で発表された内容ですので、ご覧ください。

１．学校運営協議会テーマについて

　ＣＳ委員、子どもたち、教職員、それぞれの立場から、改めて大玉村のよさを考え、共通点や相違点を見出すことで、発信したい「大玉村の魅力」を熟議する。

「大玉村の魅力発信！修学旅行でＰＲ！」
～ 大玉村のよさを語り合おう ～

○　玉井小学校では、ふるさと学習を通してふるさと大玉村の人・もの・ことを学び、ふるさとに対する愛情・誇りを持つことができる児童の育成を図っている。

○　今日は、子どもたちが感じている大玉村のよさ、そして、参加の皆さんが感じているよさを語り合うことによって、大玉村のよさを再認識する場、ふるさとを見つめ直す場としたい。

○　６年生は９月下旬の修学旅行で仙台市を訪れ、その中でふるさと学習の一環として、これまでの学びや本日の熟議で感じた大玉村、玉井のよさを発信する活動を実施する予定である。多くの方々の心に響く発信内容や方法などについても話し合っていただければ幸いである。

○　話し合いの最後には、大玉村のよさを理解し、情報を発信することにより、「こんな大玉村になったらいいな」という村の未来について思いをはせていただきたい。

２．情報共有（３つの班の協議内容から）

（１）大玉村のよさは・・・

①　美しい自然に恵まれている（百名山の安達太良山、イグ根と広大な水田の景色、大名倉山、遠藤ケ滝 etc.）

②　きれいな安達太良の伏流水を利用した稲作とおいしいお米、野菜等

③　地域のつながりが強く、人の関わりがあって住んでいて安心感がある。

④　豊かな自然を生かした施設（フォレストパークあだたら、村民の森、アットホームおおたま etc.）

⑤　世界遺産マチュピチュ村と友好都市協定を結んでいる。
　大玉村からペルーに移住した野内与吉氏が、マチュピチュ村の行政最高責任者、初代村長を務めた。（ホテルの開業、水力発電所の建設に尽力した功績による）

⑥　福島県のほぼ中央部にあって、都市部（郡山市、本宮市、二本松市、福島市等）に近く、交通のアクセスも非常にいい。（東北本線、国道４号線、東北自動車道、磐越自動車道等）

⑦　全人口に占める子どもの割合が福島県内一であること（教育、福祉の充実。コミュニティ・スクール実施）

⑧　史跡、歴史・文化　…　古墳が多いこと。伝統的民俗芸能（田植踊、十二神楽、玉井神社祭礼 etc.）

（２）こんなふうにしてよさをＰＲ・情報発信しては？

＜発信・ＰＲの仕方＞

- 中学校でＣＭ作りの活動をしているということなので、子どもたちの動画を映しながら村のよさを伝える。
- 本やパンフレットを作ってＰＲする。（大玉村のよさが一目で分かるように、写真を載せたり、村のキャラクターの“たまちゃん”を使ったりするなど、６年生がイメージしたものを作っていく）
- 伝統文化の映像化（５年生の時に踊った田植踊の映像を見せる）
- ポスターを作って、駅のホームなどに掲示していただく。また、（修学旅行の時だけでなく）日常的に直売所やプラントに掲示していただくよう依頼するなど、子どもたちの活動を継続してできたらいいのではないか。
- 写真パネルを作り提示（掲示）する。
  ・ 子どもたちが撮った写真　　・ 村内の他のコンテンツでも使っているものを利用

＜伝統や文化等のＰＲ＞

○ 去年経験した田植踊
・ 狐やひょっとこのお面をかぶり、笛をちょっと吹いてみたりする。田植踊は珍しいものだと思うので、それで一度皆さんの興味・関心を引きつけたい。

＜自然や農産物、人のよさをＰＲ＞

○ 田舎のよさ（＝自然のよさ、地域のつながり）も一緒に発信できたらいい。
○ 全国的に有名な「ダッシュ村」は実は大玉村ということを知ってもらい、そこからお米のおいしさ、野菜のおいしさ、農業のことについて発信できたらいい。
○ 地元産の商品を作ってみる。（スイーツ等）

＜その他＞

○ 大玉村は世界遺産のマチュピチュ村とつながっていて（友好都市）、とても魅力的なポイントである。実際にマチュピチュ村に行って農業や消防のことを教えているということなので、それについて発信していけたらいい。
○ 「１０年後にスマートインターができる予定なので、それを使って仙台の方も来てみてください！」なんていうふうにまとめをするといいのではないか。





子どもと大人が、課題解決のために共に語り合いました（学校運営協議会）

◎　話し合いを通して、ふるさと大玉村の素晴らしさを再確認できたようです。熟議によっていろんなアイディアも生まれましたし、子どもたちの意欲と能力の高さを感じた時間でもありました。

◎　９月２９日（火）～３０日（水）に玉井小６年生は仙台に修学旅行に行き、大玉村のＰＲ活動を行いました。実際の様子を玉井小学校のホームページでご覧いただけます。興味深い内容ですので、ぜひ確認いただければ幸いです。

大玉村教育ポータルサイト　→　https://ohtama.fcs.ed.jp/